

全校生徒206名による、令和2年度がスタートしました。誠実かつ物腰柔らかく会話してくれる子どもたちに、心が癒されています。さて、学校だより「百合樹（ユリノキ）」も発行を重ね、127号を迎えました。このユリノキは、葉の形から「半纏木」（ハンテンボク）、花の形から「チューリップの樹」とも言われ、昭和27年頃に玄関前に植樹されたとのこと。約67年間の長きにわたり、春夏秋冬、井波中学生の登下校を見守ってくれています。本当にありがたいことです。

今年度の井波中学校は、徳を積み上げ、豊かな人間性を養うことを目標とし、育てたい生徒の姿を6つ決めました。

- 進んで学び、授業を大切にする。
- 品位ある立ち振る舞いができ、徳を積む。
- 失敗を恐れず、困難や逆境に粘り強く立ち向かう。
- 時事に対する関心を深め、創意工夫を楽しむ。
- 見通しをもち、自己評価力を高める。
- ふるさと「いなみ」を誇りに思う。



新芽が出たユリノキ

前年度の3学期から、ウイルスという難敵のため、前例のない学校生活を強いられています。しかし、これまで積み重ねられてきた実践や伝統を大切にしつつ、「なくしてはいけないものは何か」「改善すべきことは何なのか」を適切に見極め、前向きに進もうとする気概と創造性が大切であると考えます。また、豊かな道徳性を培うことは、学力向上や将来の人材養成につながるものと強く信じているところです。

大きな窓から太陽光がたっぷり入る明るい教室、井波の温もりが感じられる木々を存分に使った素敵な校舎で生活できることに感謝すると共に、「ユリノキ」創刊当時の学校関係者のご尽力に思いを馳せつつ、県内でも指折りの「徳を積む学校」を目指します。



地域の皆様方、ご理解・ご支援を何卒よろしく
お願いいたします。